



いずくら雄太県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話043(227)7411

6月県議会一般質問

農業の支援策を問う

ふるさと市原市の発展に全力を挙げている伊豆倉雄太議員は、6月定例県議会の一般質問で質疑に立ち、農業問題や観光施策、教育や高滝ダムの堆砂問題についてなど、様々な課題を取り上げ、県執行部の考え方をたどしました。その概要をお伝えします。



6月県議会で質疑を行う伊豆倉議員

伊豆倉議員 昨年より問題となっている米不足は、インバウンドの影響やコロナ後の状況把握が甘かったのではないかと。

全国生産量9位の米どころでもあるわが県で、米が不足していると言われていたが、県はどう捉えているのか。

農林水産部長 国が生産者や流通事業者を対象に実施した調査によると、大手の集荷業者への出荷数量は前年産に比べ減少する一方で、生産者の直接販売等は増加していることが判明したことから、流通が多様化し、在庫が分散していることが、米が不足していると言われる一因と考えています。

伊豆倉議員 国では、流通の円滑化を図るため、本年2月に政府備蓄米の放出を決定し、これまで31万トンの売渡しを行ってききましたが、今後さらに、随意契約により政府備蓄米の売渡しを開始したところですが。

伊豆倉議員 これだけ米価が上がると、飼料用米を作っている農家も食用米に変える方が増えると思う。米価高騰する中、飼料用米の生産が減り、畜産に影響が出ると思うが、県としてどのように対応するのか。

農林水産部長 これまで、主食用米の需要が減ってきていたことから、本県では、主に飼料用米への転換を推進してきており、これにより地域の畜産農家に影響

が出ないよう取り組んでまいります。

国では、流通の円滑化を図るため、本年2月に政府備蓄米の放出を決定し、これまで31万トンの売渡しを行ってききましたが、今後さらに、随意契約により政府備蓄米の売渡しを開始したところですが。

により地域の畜産農家との直接取引による飼料用米の生産が広がってきています。本年4月に県内の稲作農家約100戸を抽出し、令和7年度の作付意向を聞き取ったところ、約7割が前年より主食用米の作付を増やすと回答した一方で、畜産農家からのニーズへの対応や、収穫時期の分散のため、継続して飼料用米を生産するという回答もありました。県では、専用品種による飼料用米の作付や、ほ場の集約化などの取組を支援するとともに、地域内で飼料用米を利用する取組を支援メニューに加えることとして調整しているところであり、地域の畜産農家に影響

が出ないよう取り組んでまいります。

伊豆倉議員 農家が辞めてしまふタイミンクとして、機械が壊れるタイミンクで農家を辞める方が多い。水稲の機械導入へのサポートはどのようなものがあるのか。

農林水産部長 県では、販売額の向上や生産コストの低減に取り組む担い手に対して、コンバイン等の機械や乾燥調製施設の導入を支援するとともに、機械の共同利用などを進めているところですが。

伊豆倉議員 令和5年の資料では、県内に再生可能な荒廃農地が7,476haある。県では、荒廃農地の再生利用に向け、今後どのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 荒廃農地は、水はけが悪いことや区画が小さいことなど耕作条件が不利な場所に起因して生じることが多いことから、担い手が利用するためには、条件を改善し早期に耕作できるよう再生することが必要です。

伊豆倉議員 農業従事者の高齢化が進んでいる現状で、地域の農業を守るためにも、意欲ある担い手農家の経営規模の拡大を進め、所得向上を図ることに、魅力ある農業を実現することが重要だと考える。担い手の育成を県はどのように考えているのか。

知事 農業者の減少や高齢化が進む中、本県農業の維持・発展を図るためには、新規就農者の確保に加え、生産の効率化や規模拡大に取り組む、経営感覚に優れた担い手を育成していくことが重要です。

伊豆倉議員 令和5年の資料では、県内に再生可能な荒廃農地が7,476haある。県では、荒廃農地の再生利用に向け、今後どのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 荒廃農地は、水はけが悪いことや区画が小さいことなど耕作条件が不利な場所に起因して生じることが多いことから、担い手が利用するためには、条件を改善し早期に耕作できるよう再生することが必要です。

伊豆倉議員 先日いただいた資料では野生鳥獣の農作物の被害は令和5年度では3億3千万となっている。実際に昨年、有害鳥獣の被害があまりにも酷く、農業をやめしまった方もいる。有害鳥獣の頭数削減に向け、県ではどのように取り組んでいるのか。

環境生活部長 県では、有害鳥獣による農作物被害等を防止するため、個体数を減らす「捕獲」、柵などを設置する「防護」、集落に寄せ付けない「環境づくり」などを柱として、総合的に対策を進めているところです。

伊豆倉議員 令和5年度の資料では、市町村の捕獲事業等への財政的支援や、捕獲従事者向け「わなの技術向上研修」等による技術的支援のほか、特に被害の大きいイノシシ、ニホンジカ等については、県において生息域の拡大防止を目的とした捕獲を行っています。

伊豆倉議員 令和5年度にはイノシシは約35,000頭、ニホンジカは約9,000頭を捕獲し、いずれも目標数を上回ったところであり、今後もより効果的な捕獲方法の研究を行うなど、取組を進めてまいります。

伊豆倉議員 有害鳥獣の捕獲数は増えているとの話ですが、個体数の減少まではなかなか実感を得られないと思う。ぜひ効果的な捕獲を今後ともお願いしたい。

や用地買収の範囲等を考慮し、経済性や施工性等について比較検討を行う予定で
す。